



取締役執行役員経営管理部長の山田です。本日は参加いただきまして、誠にありがとうございます。株式会社オプトラの2021年度第1四半期決算の説明します。



2021年12月期 1Q 決算の概要

1. 決算ハイライト(2021年1Q)
2. 売上高・営業利益 (四半期毎)
3. 分野別売上高 (四半期毎)
4. 受注高(四半期毎)
5. 連結貸借対照表(2021年1Q)

1 決算ハイライト (2021年 1Q)



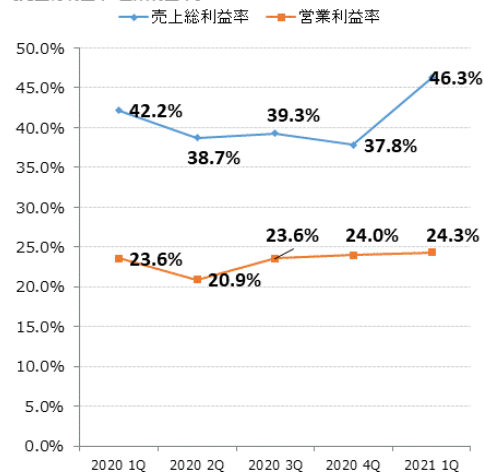
- 受注回復傾向継続。北米・東アジアともスマートフォン・IoT・LED関連で受注・売上を計上。
- 新型スパッタ装置・ALD装置・新型LED用装置等の受注・売上高が業績牽引。
- 売上原価率減は新型装置売上増と原価率削減努力が奏功。(売上総利益率アップ)
- 米ドル高で為替益も利益貢献し、良好な経常利益率・純利益率となった。

【業績比較】

(億円)

	2020年12月期 1Q	2021年12月期 1Q	前年同期比
売上高	68.3	68.8	0.6%
売上総利益 (売上総利益率)	28.8 (42.2%)	31.8 (46.3%)	10.5%
販管費 (販管費率)	12.6 (18.6%)	15.1 (22.0%)	19.3%
営業利益 (営業利益率)	16.1 (23.6%)	16.7 (24.3%)	3.5%
経常利益 (経常利益率)	18.1 (26.6%)	21.7 (31.5%)	19.5%
親会社株主に 帰属する四半期純利益 (親会社株主に 帰属する四半期純利益率)	14.4 (21.1%)	14.5 (21.1%)	0.5%
研究開発費 (売上高研究開発費率)	7.0 (10.3%)	7.2 (10.5%)	3.0%
設備投資額	3.0	3.1	1.5%
受注高	125.7	91.3	△27.4%
受注残高	382.0	258.3	△32.4%

【売上総利益率・営業利益率】



2

2 ページ目は、決算ハイライトです。

売上高 68 億円、売上総利益 31 億円、営業利益 16 億円、経常利益 21 億円、当期利益 14 億円、受注高 91 億円でした。右の折れ線グラフのとおり、売上総利益率は 46%、営業利益率は 24.3% でした。

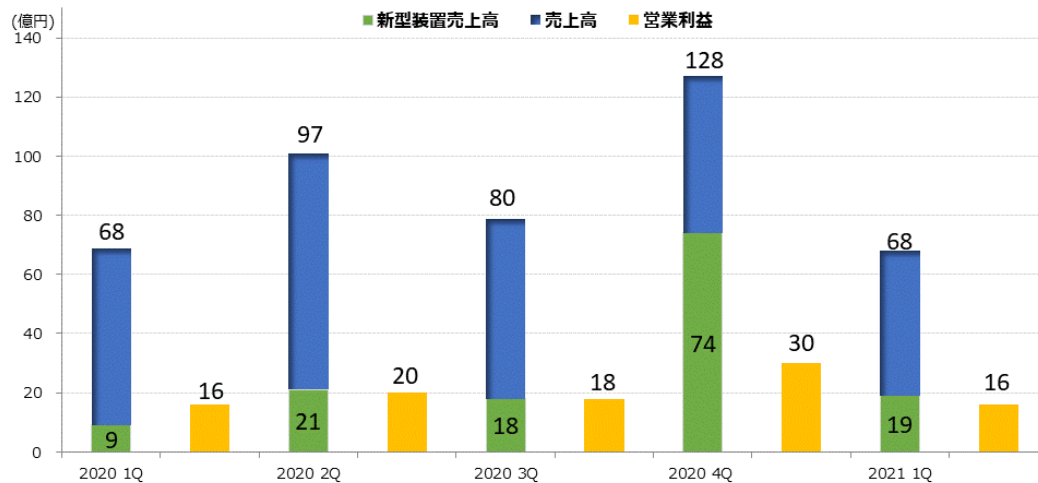
ハイライトとしては、まず受注環境は大幅に回復しました。北米、東アジアともにスマートフォン、IoT、LED、全般にわたって売上・受注を共に計上しました。

2 点目としましては、新型装置が売上高・受注共に業績を牽引しました。新型の装置はスパッタ、ALD、LED 用の装置が中心です。新型装置の売上や原価削減努力によって粗利率も向上しました。最後にドル高の影響により、経常利益では増益となりました。

2 売上高・営業利益（四半期毎）



- 新型装置の売上高比率29%、北米向けスパッタ装置も前四半期に続いて売上計上。
- スパッタ装置4割、蒸着装置5割強。
- 2020・4Qは北米向けスパッタ装置の売上急増があったが、1Q前年同期比では売上高は横ばい。



3

3 ページ目は、売上高、営業利益の四半期ごとの推移です。第1四半期は68億円、うち新型装置が約19億円を占めております。これは売上高の中の約29%でした。この中には北米スマートフォン向けのスパッタ装置も前四半期に続いて含まれております。

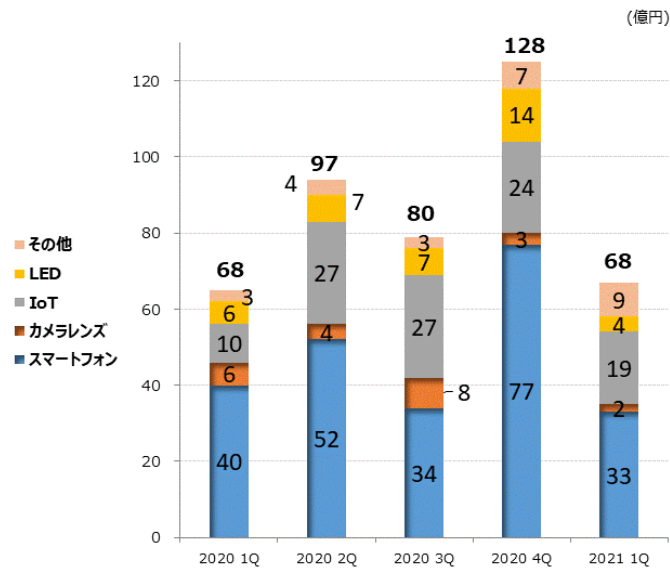
全体のスパッタ装置と蒸着装置の割合としては4対5です。

前四半期は北米スマートフォン向けのスパッタ装置の売上計上がまとまってあり、それと比べると減収となりましたが、前年同期比ではほぼ横ばいでした。

3 分野別売上高（四半期毎）



- スマートフォンは、カメラモジュール・3Dカメラ向けが中心。
- IoTが堅調（売上の28%）。特に光通信、生体認証が貢献。

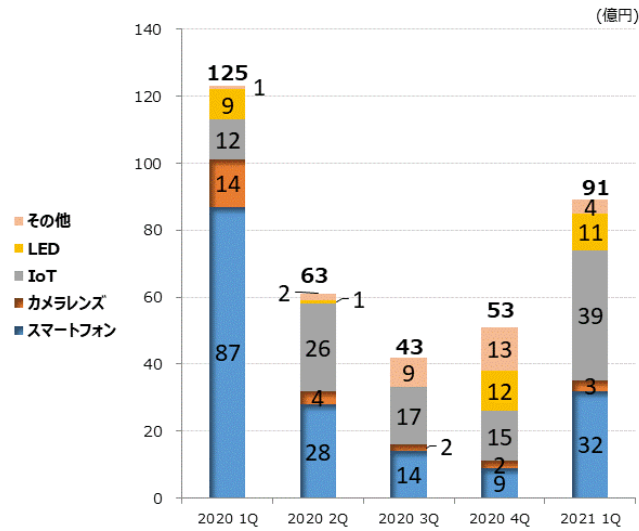


4 ページ目は、分野別売上高です。第 1 四半期は、スマートフォンではカメラモジュール、3D カメラが中心で 33 億円です。それから IoT が堅調でした。この中としては、光通信、生体認証、自動車が含まれています。IoT の比率は全体で 28% ということで、2020 年を通じてよりも高い比率を占めています。

4 受注高（四半期毎）



- 2021・1Q受注高は、前四半期比70%増。
- スマートフォンは北米新型スパッタ装置受注を獲得。
- IoT分野が好調を維持、自動車・生体認証・光通信・AR/VR等。
- 新型装置受注高は全体の40%以上。新型スパッタ装置・ALD装置の受注が好調。



5

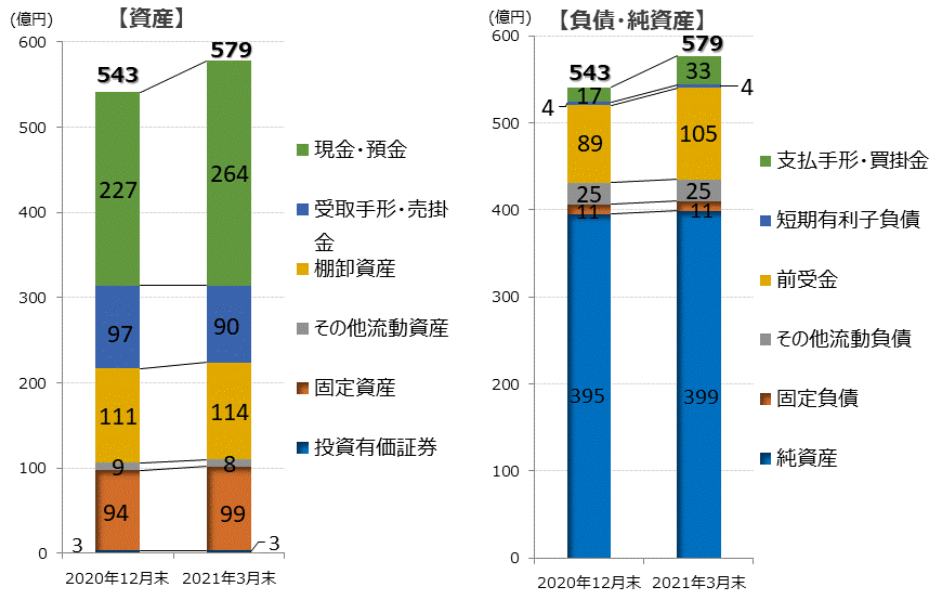
5 ページ目は、受注高の推移です。第 1 四半期は前四半期に比べて 70%の増加となりました。これは受注環境の好転を示しています。

スマートフォンは、北米スマートフォンから受注を獲得したものが含まれ、全体の 35%でした。また、IoT 分野が引き続き好調を維持しました。特に自動車分野、生体認証が IoT を牽引し、全体の 43%です。最後に新型装置の受注高が全体の 4 割以上を占めました。主にスマートフォンの加飾と ALD 装置、光通信関係、LED 等が含まれています。

5 連結貸借対照表 (2021年 1Q)



- 現金・預金は、37億円増（売上債権回収ため）、前受金は15億円増（受注増による）



6 ページ目は、連結貸借対照表です。まず資産の特徴としては、現金・預金が 37 億円増加しています。これは売上の債権回収によるものです。負債の部では、前受金が 15 億円増加しています。これは受注が増加しているためです。

総括しますと、全体的に第 1 四半期は受注環境が好転、新型装置が売上高・受注共に業績を牽引し、新型装置の売上や原価削減努力によって粗利率も向上し、為替環境もフェイバーでした。

免責事項・注意事項ならびにお問合せ先



当資料に記載された内容は、2021年5月11日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】

E-mail : ir-info@optorun.co.jp

TEL : 03-6635-9487

7

以上